

病院と地域、患者さんをつなぐ“広報力”を磨く

第15回医療機関広報フォーラム

<開催概要>

日時 2019(平成31)年3月8日(金) 13:00～17:00
 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 417号室
 (東京都渋谷区代々木神園町3番1号)
 対象 医療専門職・事務職・看護職など、職種を問わず広報に関心のある医療機関従事者
 定員 100人
 主催 公益社団法人日本広報協会
 後援(予定) 厚生労働省、(公社)日本医師会、(公社)日本看護協会、(一社)日本病院会、(公社)全日本病院協会、
 (一社)日本医療法人協会、(公社)日本精神科病院協会、(公社)全国自治体病院協議会、
 (一社)日本精神科看護技術協会
 参加費 8,000円(税込み) ※日本広報協会会員は5,000円(税込み)

<プログラム>

13:00～14:30

講義 1

医療広告に関する新ガイドラインとウェブサイトの活用法

講師：佐藤大記／株式会社幻冬舎ウェブマ代表取締役社長

2018年6月から、医療法上の広告規制が変わり、医療機関のウェブサイトは全て「広告」と見なされるようになりました。医療機関がウェブサイトでやっていいこと・悪いこと、そしてガイドラインに沿って集患・増患につながる情報発信をするにはどうすればよいのかを、具体的な事例を挙げて専門家が解説します。

■さとう だいき：大学卒業後、IT企業でTVCMやモバイル広告をメインとした広告宣伝に従事。2008年に企業や医療機関のブランディングに特化した出版サービスを提供している幻冬舎メディアコンサルティングに入社。2017年4月から現職。ターゲット目線によるコンサルティング力をもとに、医療法人のプロデュース実績も豊富。

14:45～15:45

講義 2

危機発生時におけるマスコミ・広報対応

講師：井口明彦／株式会社プラップジャパン メディアトレーニング部部长

危機管理広報主席コンサルタント・日本広報協会広報アドバイザー

医療機関においてクライシス(医療事故、医療従事者の不祥事等)が発生し、マスコミ対応が求められた場合、適切な広報対応を行い、事態や報道を沈静化に向かわせる必要があります。実際に多くの団体、民間企業に対して緊急時のマスコミ対応のコンサルティングを行ってきた経験豊富な講師が、危機発生時のマスコミ対応の勘所、公表の判断基準、広報手段の選択肢と判断、スポークスパーソンや広報担当者の役割などについて、事例をもとに解説します。

■いのち あきひこ：PR会社で数多くの企業の広報活動支援を手がける。1999年、プラップジャパンで「メディアトレーニング」「危機管理広報コンサルティング」の専門部署を立ち上げる。現在、企業・行政機関などを対象に年間160件以上のメディアトレーニングを手がけ、危機管理広報に関するコンサルティング経験も豊富。

16:00～17:00

講義 3

「やってはいけない」院内掲示物の作り方

講師：平本久美子／グラフィックデザイナー・ウェブデザイナー

チラシやポスターなどの院内掲示物は患者や家族へのメッセージであり、医療機関のイメージづくりに大きな役割を果たします。そんな院内掲示物をどうしたら上手に作れるか、悩んでいませんか。「やってはいけない」ポイントが分かれば、デザイン力がグッとレベルアップします。すぐに役立つデザインの基本を、ビフォー&アフターで学びます。

※参加医療機関の院内掲示物を講師がリメイクし、そのビフォー&アフターを講義で紹介します。ご希望の方は、院内で作成した掲示物(2部)とデザインで工夫した点・苦労した点をまとめたメモを、2月4日(月)必着で事務局宛にお送りください。なお、講義時間の都合でリメイクする掲示物は2例のみとなります。ご了承ください。

■ひらもと くみこ：都内の制作会社に勤務後、2000年からフリーランスとなり、企業や教育機関・地方自治体などのウェブサイトやチラシ・ポスター・パンフレットなどのデザインを手がける。デザイン専門書籍の執筆を行うほか、ボランティア・NPO団体を対象とした「伝えるチラシの作り方」講座の講師も務める。著書に『やってはいけないデザイン』など。

※情報・意見交換の一つとして、皆様の医療機関の広報誌等を、ぜひお持ちください。会場で閲覧できるように展示いたします。